保育おおさか

平成19年10月1日　第386号
大阪府社会福祉協議会・保育部会
（大阪府保育協議会）
☎ 06－6762－9001　Fax 06－6768－2426

問題を抱えた方を積極的に発見・支援
―地域貢献事業準備委員会―

保育部会の地域貢献事業準備委員会が8月からスタートしたことは既にお知らせのとおりですが、現在、準備委員会で検討している趣旨、目的について改めて述べますと、おおよそ次のとおりです。

現代の地域社会には虐待、介護、就労、孤立、孤独死など様々な問題が存在しています。一方、保育園においても保育の問題だけでなく、児童虐待など家庭内での問題、働く親への支援など環境づくりの問題といった子育てを取り巻く課題が山積しています。こういった様々な問題をもつ方の相談を保育園内ですべて完結（問題解決）することは困難な場合があり、適宜、関係機関や団体へ橋渡しをする。その支援を行うことで早期解決につながるのではないかと考えています。

この度、大阪府が募集する「民間社会福祉施設における先進的取組パイロット事業」に、「保育園における地域貢献サポート事業」と題し、千里山やまて学園が事業推進の中心施設、保育部会が協業団体として採択を受けました。今後、地域貢献事業の必要性の周知とモデル事業の展開、相談業務にあたる人材育成などに取り組みます。

人材育成の面では、育児相談員の認定制度がありますが、既に相談業務のノウハウを持つ認定者が800名を超えています。育児相談員が保育以外の分野の知識を習得することにより、総合的に対応できる援助者が誕生することになります。

このように大きなスケールで事業展開できることが保育園の果たす地域貢献のメリットであり、地域に埋もれている問題を抱えた方を積極的に発見できるのではないでしょうか。

本紙では引き続き準備委員会の進捗状況などについてご報告させていただきます。

（編集委員N・S）

支えあう職場づくりと保育感の共有を
―第1回タイムリー講座―
ちゃいるどネット大阪・保育部会共催

ちゃいるどネット大阪と保育部会の共催で、第1回タイムリー講座が8月25日大阪市立住まい情報センターで開催されました。テーマは「保育者のメンタルヘルス～仕事のストレスと職場づくり」。講師の重田博正氏は、労働科学の専門家で大学在学中に、保育士の職業病に出会い、この問題を調査・研究されています。

保育の仕事はコミュニケーション労働

重田氏は、ストレスの原因（ストレッサー）を分析し、その改善策を提案されています。保育士の仕事をコミュニケーション労働（声音や表情、しぐさなど身体と全人格を使って情報伝達する特殊な職業）と定義し、日頃保育士が抱えている子どもや親に対する疑問・問題点のいくつかについて、分かりやすく、具体的に説明されました。

ストレッサーの軽減には労働負担の減少だけでなく、「支えあう職場づくりの大切さ」と「各人が保育観を共有し、協力すること」が必要で、特に「保育士が積極的に自分たちの問題として参加する会議」の重要性を強調されました。

（交野保育所J・F）

ねこと

28年前、川柳作家であった亡父から、句会会場への送迎を依頼され、待つだけなら退屈だろうということで「あんたも句を作ってだしたらどうや」と冗談とも取れるような口調ながら「一冊の発表柳誌」を渡されました。拝見すると私にもできるのではないかと生意気にも思ったのです。しかし、初めから思ったような句ができるはずもなく、句会の前夜は大変短く感じられたものです。結果は15句提出中2句が選ばれただけ。ところが当時、父は「初出席で2句は立派や。たいしたもんや」とめったに聞かないほめ言葉を連発。私が後々まで川柳を続ける発端でした。

思えばまさにほめて育てる保育の原点のような出来事でした。その後多くの大会で受賞を果たしましたが生涯忘れることのない川柳との出会い。そして父を偲んで一句「あの時の父にも雪が降りしきる」

（編集委員S・S）

ＡＩＤの話から家族支援について考える

2007年度第1回

大阪子どもネットワーク活動交流のつどい

「ＡＩＤ（非配偶者間人工授精）で生まれた子どもたちからのメッセージ」をテーマに、大阪子どもネットワークの２００７年度第１回活動交流のつどいが８月25日、大阪府社会福祉会館で開催され、参加者からは「ＡＩＤの話から家族支援について考え、地域福祉の大切さが今後ますます求められる時代となる」との共通認識の声が多く寄せられました。

つどいでは、ＡＩＤで生まれた３人の当事者から報告がありました。まず告知に関する父親への調査について、「告知は絶対にしない」が63％、「できればしたくない」が18％と、告知に否定的な方が８割以上を占めるという結果が報告されました。しかし、ＡＩＤで生まれた子どもに対する調査は実施されておらず、当事者側がどのような問題や悩みを抱えているかといった調査の必要性を指摘されました。

２人目の報告者は「告知を受けるまでの28年間の事実を否定されたような感じがした。両親にだまされた感覚だった」と述べられたうえ、「子どもは不信感を持っているし、親も隠すことへの罪悪感がある。親子関係を悪くしないためにお互いの考え方を理解し、親子間のギャップを作らないことが大事」と強調されました。

93人が参加

ＡＩＤの問題提起と解決に向けて意見を述べられた３人目の報告者からは、まず医療機関に対して、親にとって医師からの情報がすべてで影響を受けやすいためサポート体制を作ってほしい、また親に対して、子どもにどう告知するかの勉強と情報収集をしてほしい―などの要望がありました。

熱心にディスカッション

コーディネーターの才村眞理・帝塚山大学教授は「当事者が事実を知って否定的にならず、前向きになれるよう周囲の人たちのサポートが重要」と結ばれました。

保育園からの参加者は「人の気持ちや思いは話を聞いて初めて理解できることもある。また、様々な変化やサインに気づくことも思いを知る上では重要。保育園の園児に対しても同じことが言える」と感想を述べておられました。

ＡＩＤとは非配偶者間人工授精（Artificial Insemination by Donor）の略。夫以外の第三者から提供された精子を妻に人工授精する方法。日本では50年以上の歴史があり、１万人以上の子どもが生まれているといわれ、現在も年間百数十人の子ども達が生まれている。ＡＩＤに関係する夫婦、医師、そして提供者がこの技術に関し口を閉ざしてきたため、実際にどのように感じ、考えているのか、これまであまり明らかになっていない。

平成19年度ＡＥＤ設置促進事業

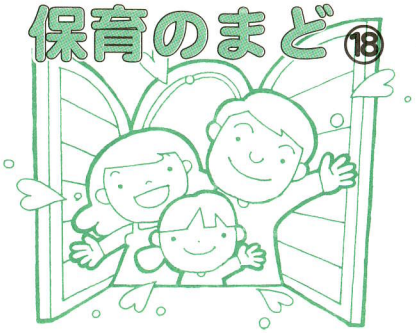
府下社会福祉施設にＡＥＤ（自動体外式除細動器）の設置に対する助成が行われていることは本紙８月号でお知らせのとおりです。今期、交付決定を受けた79施設のうち保育園は41カ園でした。交付が決まった施設へは、施設利用者はじめ地域の方々にも広くＡＥＤの普及を進めていただくために府社協オリジナルの「ＡＥＤ設置施設」と表示したプレート（プラスチック製、Ａ４サイズ）〈写真〉を先月中にお送りしたところです。プレートには≪「救命都市大阪」をめざして、大阪府、大阪府社会福祉協議会≫と記されています。

この購入補助金については今月、再度、未設置の府下施設へ申請の受付を行います。前回購入を見送られた施設でも再考いただければと思います。

また、施設におかれましては機器購入の有無に関係なく急病者に対する適切な処置を行うため、職員等に対する一次救命処置（心肺蘇生法とＡＥＤを用いた除細動）、ＡＥＤ講習会の積極的な受講をお願いします。講習は、近くの消防署をはじめ、ＮＰＯ法人大阪ライフサポート協会などで実施されています。なお、大阪ライフサポート協会では大阪府の委託事業として※講習を実施されていますのでホームページなどでご確認下さい。

※オプションとして、乳児・小児ＢＬＳ（一次救命処置）・異物による気道閉塞等にも応じていただけるようです。詳しくはＨＰでhttp://www18.ocn.ne.jp/~osakalsa/

保育のまど⑱



豊かな自然の中で“四季の育み”満足してもらった国際交流「山直南保育園」

アンニョハッセーヨ、アンニョ…。園のあちこちから、あんな短期間によくもあれほど韓国語の挨拶が飛びかったものだ…と感心するほど賑やかな数日でした。

5月末、一本の電話から始まった国際交流。土日を挟んで4日目、超スピードで当日がやってきました。幼児、小・中学生数人を含めた韓国からの40人もの来客。とにかく圧倒された数、数…。

そして大きな声の質問責めに、さすがの私もお手上げ。そこでこちらも清水文子先生、西信達保育園の水野先生、そして岸和田の力強い助っ人に応援を頼み、あの賑やかな子どもたちのアンニョハッセーヨのお稽古が成就された一日となったのです。

国柄の違いか、韓国の人たちが短い時間にエネルギッシュに日本の保育環境などを吸収し、積極的に日本の子どもたちと関わる行動力は、子どもも私たち職員も驚きの一語に尽きる一日となりました。救われたのは韓国のみなさんに大喜びされ満足して帰っていただいたこと、当園の子どもたちがピッカピカの姿勢でお迎えしてくれたことでした。

40人が訪問

当園は昭和45年6月開園。第一保育所の八木保育園に続いて開設され今年で37年目になります。今では郊外の一等地へと変身しておりますが…。当時、周辺は寂しい里山のイメージが漂い、夜には狸が遊んでいたり春先にはニョロニョロとヘビが飛び出してくるようなところでした。

山が姿を変え、北の服部緑地に続いて南のこどもの国、トンボ池公園へと大きく様変わり。平成11年には第23回全国育樹祭がこの山直の地で行われ、大整備の末、大型遊具の設置やトイレの整備が実施され今や大阪府民の憩いの場、府内外から大勢の子どもや人々が集う賑やかな場所となっています。

そんな素晴らしい公園に隣接する当園の子どもたちは、春夏秋冬を通して豊かな自然と遊園地を兼ね備えた環境の中で、花々や木々の移ろいをながめ、保育の真髄が窺えるような〝四季の育み〟の日々となっています。

一方、近場にできた関西空港のおかげで高速道路へ繋がる道路網が整備され、保護者の方々の通勤も便利になりました。少子化時代ですが、当園は、〝最寄り駅がなくても子どもたちの犇めく保育園〟へと姿を変え、今では岸和田市全域から子ども達が集う園となっています。

（山直南保育園　M・S）

みんなで歓迎

3000人が参加 おおさか食育フェスタ2007

毎月19日は食育の日

「おおさか食育フェスタ2007」が8月28日、そごう心斎橋店で開かれ、3000人を超える参加がありました。

オープニングのステージでは「なんでも食べる元気な子ども」というテーマで、古川園から「ねずみのすもう」、旭ヶ丘学園北野分園から「ありんこブギ」、また御池台保育園、みどり幼児園、登美丘西保育園、堺めぐみ保育園から「ブラッククライト劇」が各保育園の園児、先生方によって演じられました。

フェスタでは体感型の食育展示や食育トークショーが行われ、食育に関わる団体が「お弁当のバランスチェック」や「歯みがき相談コーナー」、「学校給食の試飲・試食コーナー」などを出展、食育トークでは大阪府出身の料理研究家、コウケンテツ氏が「野菜&朝ごはんで心もカラダも2度おいしい」のテーマで体験をまじえ話されました。

14団体が出展

ブロックだより

北摂ブロック

保育に繋がる研修を立案・実施！

北摂ブロックの行事や保育士研修会では、現場で役に立ち、保育に繋がる研修会を立案し、実施しています。

5月27日には恒例の職員運動会が開かれました

キャンプファイヤーでゲームを楽しむ

が、各園の保育士が集まり、提案した競技を準備会で練りあげていきます。

担当園がプレゼンテーションを行いますが、様々な角度からの質問があり、安全性、流れを考慮しながら、ひとつの競技を担当することになります。これは秋の自園の運動会で取り入れるのに大変参考になります。

6月8日・9日のキャンプ研修では、飯ごう炊さんやキャンプファイヤーの進め方をインストラクターから教わりました。

8月9日の夏の納涼では、フレッシュな気持ちで保育に臨めるように、童心に返って粘土を練り信楽焼きを体験しました。

（編集委員M・H）

保育園をたずねて 355

寝屋川市 エルミン保育園

子どもの思いを引き出す保育

道路を隔てて市の公園があります。春は桜が咲き、秋にはスポーツ。また、1年を通してお年寄りがパターゴルフやゲートボールにと、地域の方々の溌剌とした姿が見られます。

園設立から29年目を迎えます。設立当初から子どもが好むもので満足して遊ぶこと、また、子どもが持つ自立への憧れを大切にした保育に取り組んでいます。子どもの思いを引き出しながら、自身が創意工夫し自由に製作をしたり、年下の子どもや友達を思いやり、一緒に遊んだりできる環境を作っています。

元気な声で「出来た！」

先生と教具の使い方を練習し、その後は自分で「今日はどれにしようかな」と好きな教具を選び、試行錯誤して完成させていきます。出来上がった時は満足感を味わっているようです。はめ込み地図などは、大人より確実に覚えることができ、その暗記力には脱帽です。

（編集委員J・H）

河内ブロック

音楽活動に工夫 ―勉強になったリズム遊び研修会

東大阪市私立保育会では9月3日、「リズム遊び」の研修会が行われました。

研修会ではまず、みるく保育園が取り組まれているリズム遊びや歌唱指導が紹介されました。毎日、年齢ごとに、五感を養うことや姿勢を正すこと、集中力、協調性を身につけるなどの目的を持ってリズム遊びに取り組んでおられます。

また歌唱指導では毎日歌う前に腹式呼吸を使った発声練習や滑舌を良くする練習などが行われています。実際に子ども達の歌声を聞かせいただきましたが、大変美しく、毎日の練習の成果が感じられました。

そのあとは、各園で取り組んでいるリズム遊びを発表し合いました。どの園も取り組み方、目的などそれぞれ工夫され、様々な意見を聞かせていただき大変よい勉強になりました。

発表会などの行事を控えていますが、研修会の受講を生かし、楽しい音楽活動を展開していきたいと思いました。

（むぎの穂保育園Y・K）

見よ！この真剣なまなざし

みるく保育園の歌唱指導

あの人この人

交野市の倉治保育園の園長をされていた北田陸夫先生が3月末をもって保育現場を退かれました。

先生は昭和29年より小学校や府教育委員会、交野市教育委員会で活躍され、平成3年に保育園の園長に就任されました。永きにわたり保育部会常任委員としてもご尽力いただきました。

また、交野小学校区福祉委員会の委員として高齢者対象の「いきいきサロン」や子育て中の親子対象の「子育てサロン」など地域福祉活動にも携わってこられました。

今秋10月からは四條畷学園短期大学保育学科の非常勤講師として、保育現場を担う人材の育成に力を注がれます。

これからの北田先生のご活躍を期待申しあげます。

（T・M）

発行所
大阪市中央区中寺1丁目1−54
大阪府社会福祉協議会
保育部会
大阪府保育協議会
TEL (06) 6762−9001
発行人
永野治男
編集人
宮武勲